



特集1 聖火、行方市を駆ける

ランナー紹介

第1走者 踊 正太郎（よう しょうたろう）さん

生まれながらの全盲で、三味線との運命的な出会いにより困難を乗り越え、三味線一筋。生まれ育ててくれたこの茨城の地を基盤とし、音楽活動を中心に講演、執筆、後進の育成にと精力的に活躍されています。

第2走者 石田 束（いしだ つかね）さん

「子育て真っ盛りの際は、地域の皆さんに本当にお世話になりました。会社員である自分にはなかなかできない、学校での読み聞かせボランティア、通学の見守り隊、スポーツ少年団の活動支援。市のファミリーサポートも活用させていただきました。今回は地域への恩返しの一歩として聖火リレーに参加しました。」と語っていました。

第3走者 大木 卓也（おおき たくや）さん

病気により競輪選手を断念しましたが、2004年のアテネパラリンピックパラサイクリング男子タンDEMスプリントにおいて銀メダル獲得、そのほかにも輝かしい成績を残しています。今回の聖火リレーに参加し、困難から逃げずやりきること、そんな思いや経験を伝えたいと語っており、現在は奥様と二人三脚、アスリートの競技力向上、高齢者の健康維持に尽力されています。

第4走者 岡里 明美（おかざと あけみ）さん

行方市で生まれ中学生まで地元で過ごし、高校は名古屋短期大学附属高校、現在の桜花学園高校に進学しました、在学中はインターハイ、国体、選抜の3冠を達成し、卒業後はシャノン化粧品に入社、日本リーグ10連覇に貢献されました。1993年からの10年間日本代表として活躍し、1996年のアトランタオリンピックでは7位入賞と輝かしい成績を残しています。現在もバスケットボールの競技人口拡大に尽力されています。



東京2020 オリンピック
聖火リレー 麻生 行方 つくば

（日）に行われました。

茨城県の2日目、7月5日

行方市での聖火リレーは、

聖火リレーは「希望の道を、
つなごう」をコンセプトに福
島県のナショナルトレーニング
センターJヴィレッジを3
月25日にスタートした後、日
本の各都道府県を巡り、東京
へと運ばれました。

近代オリンピックでは、パ
リ大会（1924年）まで聖
火はありませんでした。アム
ステルダム大会（1928年）
の際、スタジアムの外に塔を
設置し、そこに火を灯し続け
るといふ案が採用されたこと
が契機となり、現在のような
聖火が誕生しました。

昨年、古代オリンピックの
聖地であるオリンピックの遺跡
ヘラ神殿前で採火された聖火
は、オリンピックの延期決定
後に、複数のランタンに分け
て厳重に管理・保管されてい
ました。



ナショナルサイクルルート
「つくば霞ヶ浦りんりんロー
ド」を「自転車」で、また、
日本第二の湖「霞ヶ浦」を「船」
でといった、本市の地域資
源を生かした特色あるリレー
ルートでした。「雄大な霞ヶ
浦とその湖面を優雅に走る帆
引き船」、「筑波山」が織りな
す風景等、本市の魅力を国内
外に発信しました。また、聖
火リレーに合わせてスタート
セレモニーも行われ「麻生中
学校吹奏楽部」、「認定こども
園のぞみ」、「北浦童太鼓」の
皆さんに盛り上げていただき
ました。